

私立大学研究ブランディング事業 2019年度の進捗状況

学校法人番号	081002	学校法人名	日通学園
大学名	流通経済大学		
事業名	高度なロジスティクス実現に向けての研究拠点形成と人材育成-ロジスティクス・イノベーション・PJ-		
申請タイプ	タイプA	支援期間	2018年度～2020年度
参画組織	流通情報学部、物流情報学研究所、経済学部、スポーツ健康科学部		
事業概要	<p>本学は、「流通経済一般に関する研究と教育を振興する」という建学の精神のもと、体制を整備し、「物流、ロジスティクスは流通経済大学」という評価を既に得ている。これをさらに推し進め、ロジスティクスに関する研究拠点を形成し、人材を育成する。また、ロジスティクスの重要性を社会に発信し、超スマート社会に欠かせない、ロジスティクス・イノベーションをけん引する「ロジスティクスの未来をつくる大学」のブランドを確立する。</p>		
①事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日本政府が目指す「Society5.0」、すなわち超スマート社会とは、「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かくに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられる・・・社会」と定義され、ロジスティクスが目指すところと同じである。しかしながら現在、物流、ロジスティクス分野においては、人手不足に端を発した物流危機に直面し、従来のシステムでは立ちいかなくなっており、抜本的な改革が要請されている。 ・一方、新技術（IoT、AI、ロボットなど）の進展は、ロジスティクスを今後大きく変革していくことが予想され、ロジスティクスは大きな転換期を迎えている。 ・国土交通省による「総物流施策大綱（2017～2020年度）」においては、「①今後の社会構造の変化やニーズの変化に的確に対応するとともに、②人材や設備等の資源を最大限活用してムダのない構造を構築し、③第4次産業革命への対応も含め「高い付加価値を生み出す物流」へと変革することが必要である。」としている。高度なロジスティクスを実現するためには、ロジスティクス・イノベーションが欠かせず、その実現を支える研究拠点の形成と高度なロジスティクス人材の育成が欠かせない。 ・本学は、「流通経済一般に関する研究と教育を振興する」という建学の精神のもとに発展してきた。さらに、日本で唯一といえるロジスティクスを柱とした学部を持ち、これまでも、物流、ロジスティクス研究の発展、日本の物流政策の発展、物流人材の育成の中核として寄与し、「物流、ロジスティクスは流通経済大学」という一定の評価を得てきた。本事業では、これをさらに推し進め、高度なロジスティクスの基盤となる、研究拠点の形成、高度な人材の育成を図っていく。経済、産業、生活に欠かせないロジスティクスの重要性を広く社会に発信し、位置づけを高めると同時に、超スマート社会に欠かせない、ロジスティクス・イノベーションを、企業、業界団体、政府等とともに、けん引し、「ロジスティクスの未来をつくる大学」として、ブランドを確立する。 		
②2019年度の実施目標及び実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.研究拠点における目標 各テーマにおける具体的内容の検討とステークホルダーへの発信 2.人材育成における目標 産学連携科目の継続と小中高校生等向けのロジスティクス教育教材の開発に関する検討 3.ブランディング戦略の目標 本事業の認知度、イメージ向上に向けてのブランディング戦略の実施 		
③2019年度の事業成果	<ol style="list-style-type: none"> 1.研究拠点における事業成果 <ul style="list-style-type: none"> ①社会システムとロジスティクスの研究拠点関連 <ul style="list-style-type: none"> ・第4次産業革命、「Society 5.0」の進展がロジスティクス、サプライチェーンにどのような影響をもたらすのか、近年の新技術（IoT、AI、ロボットなど）の進展状況を踏まえた、ロジスティクスにもたらす影響についての検討を行った。さらに、新技術の導入、サプライチェーン全体での全体最適化を図る上での、標準化、情報の電子化といった課題について検討した。 ・業界団体、企業関係者をメンバーとし、中長期的に各種新技術等の進展が、ロジスティクス・イノベーションをどのようにもたらすのかを検討する「社会システムと高度ロジスティクス検討WG」を立ち上げた。各種新技術等の進展が社会システム全体にもたらす変革の視点からロジスティクス・イノベーションについて検討し、中長期的なイノベーションの姿を提示するものである。 ・IoT、AI、ロボットなどの新技術の進展が、社会システム全体にどのような変革をもたらしていくのかに関する研究会を立ち上げた（2019年度内に第1回は雇用、第2回は創造的破壊の研究会開催を準備したが新型コロナウイルス感染拡大のため開催中止）。中長期的にみた場合の社会システム全体のイノベーションに関して、広範囲な視点で検討する。 ・研究報告書「物流問題研究」において、特集テーマを「IT、AI、IoT活用で変わる物流」として、中間の検討内容を公表した。 ・アジアシームレス物流フォーラムにおいて、スマート物流セッションを共同開催し、「IT、AI、IoT活用で変わる物流、ロジスティクス」について、検討内容を公表する計画、準備をした。 ・政府が推進する戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「スマート物流サービス」の研究開発プロトタイプのデータ基盤構築及び概念実証（医薬品医療機器等）における支援研究機関として選定された。 ・スポーツ分野のロジスティクスの研究活動の社会展開、研究普及につなげるべく、「東京2020大会のロジスティクスとレガシー」をテーマに2020年2月28日にシンポジウムを計画、準備した（新型コロナウイルスの感染拡大のため開催中止）。特に東京2020に向けて、交通需要マネジメント（TDM）の実施に向けての課題について、整理、検討した。 ・一般社団法人東京都トラック協会などの協力を得て、物流事業者、荷主企業6,969社を対象に、「東京2020大会における物流に関するアンケート調査」を実施した。その結果について、プレス発表をし、新聞、雑誌等に掲載された。 		

<p>③2019年度の事業成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020に向けて、河川交通を利用した大会物流の可能性について企業と連携して検討した。 ②地域とロジスティクスの研究拠点関連 ・地域とロジスティクスについては、物流が地域活性化にどのように関わるか、地域住民の生活を支えるためにどのように貢献していくことが可能かについて検討した。特に、物流版MaaS (Mobility as a Service) の可能性について検討した。過疎地を中心として、持続的な物流サービス提供が困難となっているなか、従来の物流事業者によるサービス提供だけでなく、自家用貨物車、タクシー、鉄道といった幅広い輸送資源の活用可能性について検討した。 <p>2.人材育成における事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学連携科目の取り組みとして、2018年度から新規開講したIoT、AI、ロボットなどの進展という視点からの「IoTロジスティクス実践講座」、地域におけるロジスティクスの重要性に対応した「地域ロジスティクス実践講座」を継続して開講した。また、「物流マネジメント実践講座」、「国際物流実践講座」、「情報システム実践講座」、「ダイレクトマーケティング実践講座」、「ロジスティクス企業訪問講座」、「ロジスティクス改善演習」についても継続開講した。 ・各講座は物流関連団体や荷主企業、物流事業者などから実務者や経営者ら総勢88名を講師に招いて実施し、2019年度は春・秋学期あわせて延べ628名が受講した。受講者には自由意見を含みアンケート調査を行い、その結果も踏まえて次年度の講座計画の策定までを行った。 ・産学連携によるケースメソッド型の新たな科目「プロジェクト学習」の2020年度からの開講に向けてJETROと協議し、準備を進めた。 ・高校生向けの動画によるオンライン・コンテンツの開発を開始した。2020年度に活用を始める。 <p>3.ブランディング戦略の事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究ブランディング事業を紹介するリーフレット(フライヤー)の配布やキャンパス正面への懸垂幕掲示などにより物流業界や地域における事業の認知度アップに努めた。 ・本研究ブランディング事業の専用ホームページ「Logistics Innovation Project」を運用し、さらにSNSも活用して本事業の事業内容等の情報発信をした。 ・2020年2月28日に計画したシンポジウムでは事前のプレスリリースに加え、当日はメディア関係者を招き取材対応の準備をした(新型コロナウイルスの感染拡大のため開催中止)。 ・研究報告書「物流問題研究」を冊子体で発行し、またWebでも公開した。特集はIT、AI、IoT活用で変わる物流をテーマとした。 ・日本ダイレクトマーケティング学会、日本商業施設学会の全国大会を流通経済大学で開催した。物流、ロジスティクスの視点からの統一テーマを設定し、参加者と検討するとともに、情報発信をした。 ・テレビ、新聞、インターネット等の各種メディアにおいて、本研究ブランディング事業メンバーの物流、ロジスティクスに関する研究内容が多数取り上げられた。 ・本研究ブランディング事業の中核となる流通情報学部の2020年入試の志願者数が増加した。
<p>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究拠点における事業については、2018年度における学内での検討に続き、2019年度からは、産学連携によるWG、研究会における検討、具体的プロジェクト実施に向けての検討を行った。各種新技術(IoT、AI、ロボットなど)の進展が、ロジスティクスにどのような変革をもたらすことが予想されるかについての検討をするのと同時に、新技術導入に当たっての課題を中心に検討できた。地域とロジスティクスについては、物流版MaaSによる過疎地を中心とした持続的な物流サービス提供の可能性についての検討を進められた。さらなる具体的な検討、プロジェクト実施については、2020年度以降の課題とする。 ・高度なロジスティクス人材の育成においては、従来から実施している産学連携プログラムを引き続き実施し、加えて時代の要請に応える新たな産学連携科目を開講し評価を得た。さらに外部、学生による評価を実施し内容の改善に努めることができた。また、産学連携によるケースメソッド型の新たな科目「プロジェクト学習」の2020年度からの開講が決定した。 ・ブランディング戦略の実施状況については、シンポジウム開催によるプロモーションは有効で、一昨年に「スポーツとロジスティクス」を開催した際は、多くの参加者が集まると同時に、マスコミ等でも紹介され、一定の成果が得られた。今年2月に予定した「東京2020大会のロジスティクスとレガシー」も短期間で募集定員に達するなどの好反応を得ていた。トピックスを踏まえた研究成果の社会展開により、ロジスティクスの重要性についての発信にも努めたい。テレビ、新聞、インターネット等の各種メディアにおいて、本研究ブランディング事業メンバーの物流、ロジスティクスに関する研究内容が取り上げられる機会が増え、一定の成果が得られた。本研究ブランディング事業の中核となる流通情報学部の2020年入試の志願者数が増加しており、本事業が学生募集にも繋がるよう努めたい。 <p>(外部評価)【2019年7月11日、外部評価委員会における主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代テクノロジーに関連した研究と教育は時宜にかなった取り組みであり高く評価できる。 ・検討テーマは興味深いものが多く、成果について、アクセスが容易な環境整備に努めてほしい。 ・今後も物流に留まらず様々な業界と連携した多様な研究成果を期待したい。 ・ケースメソッド型の人材育成プログラムに期待する。物流、産業界でソリューション能力は必須であり、産学連携の実績を生かした取り組みで大学の特徴にも繋げてほしい。 <p>※次回の外部評価委員会は新型コロナウイルスの状況を見極めて開催する予定。</p>
<p>⑤2019年度の補助金の使用状況</p>	<p>2019年度補助金は、都度学内の承認(決裁)を受け、計画に基づき適正に執行した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアム、WG研究会、シンポジウム開催、外部評価委員会の開催に係る支出 ・調査研究に係る支出 ・研究報告書の作成及び発送に係る支出 ・専用ホームページの運用に係る支出 ・ロジスティクス・イノベーション推進センター研究員の人件費に係る支出